

本年度の研究の概要

■1 研究主題

「家庭学習を意識した授業改善の研究」

■2 主題設定の理由

昨年度までの2年間、本校では『すべての児童が「わかる」「できる」を実感できる楽しい授業をめざして』～ユニバーサルデザインの視点取り入れた授業を通して～のテーマで研究を進めてきた。特に「授業の見える化」により、次に何をするのがわかることで児童が安心して授業に参加できることが確認され、今後もすべての児童が「わかる」「できる」を実感できる授業づくり・授業研究を進めていくことの必要性を実感した。

すべての児童が「わかる」「できる」を実感できる楽しい授業を行っていくことで、児童の学力は向上していくものと考えているが、近年、児童の学力向上には「授業改善とその授業に深く関わる家庭学習の充実」が不可欠であることが言われている。学習指導要領の総則には、学校の教育活動を進めるに当たり「家庭との連携を図りながら、児童・生徒の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。」とある。また、各教科等の指導に当たっては、「児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること。」とあり、家庭学習を定着させるための、児童の「自己学習力」向上を意識した取り組みも求められている。

学校での授業と家庭学習は、児童の学力向上において「車の両輪」である。目の前の子どもたちの成長段階に合わせ、教員と保護者がそれぞれの役割を果たすことが不可欠であると考えている。生活習慣も踏まえた学習習慣の確立に向けて、教員・保護者の意識向上も進めながら、授業と家庭学習の有機的な結びつきについて考えていくことが、児童の学力向上には必要だと言える。

家庭学習の習慣を確立するためには、授業との関連付けが明確にされ、児童が家庭学習の意義を見出せるようにすることが大切である。そのために、昨年度までの研究内容であった「ユニバーサルデザインを取り入れた授業」の『構造化』の取り組みが活用できると考える。単元の学習展開を事前に子どもに伝え、終末までの学習内容をしっかり把握できるようにすることで、子どもは学習意欲を高める。学習の終末が見通せることで、児童は授業につながる家庭学習の意義も見いだせるようになり、学習習慣の確立も期待できるのである。

昨年度までの研究を生かしながら、今年度はその考え方を家庭学習にまで広げ、児童に確かな学力と自立する力をつけさせていきたい。

■3 研究主題のとらえかた

(1)家庭学習について

家庭学習の概念は、教科に関する学習や楽器演奏・歌、工作・絵画、スポーツなどを含めて、「自分で計画を立て実行すること」「分からないことや知らないこと、興味あることを調べ、覚え、論理的にものを考えたり文章にまとめたりすること」「家庭・地域社会において社会性を身に付け、集団の一員として活動すること」など多様であると考えられるが、ここでは『自分で決めた課題などを、家庭において机などに向かって行う学習』ととらえ研究を進めていきたい。

理由としては、「家庭において机などに向かって行う学習」に焦点化した方が家庭学習の目標や時間の目安を確認しやすいこと、教員間の共通理解が図りやすいこと、また教員が家庭学習としてとらえる児童の姿として、机などに向かって学習している様子をもとにしていることが多いことなどが挙げられる。

家庭学習の定着とは、家庭での学習が一時的な現象ではなく、一日の生活時間に位置づけすることが当たり前になった状態をいうこととしたい。

(2)授業改善について

授業改善には、授業規律の見直し・確立、児童への学び方指導、家庭への働きかけ等を含む。家庭学習を授業の延長あるいは前提として位置づけ、内容提示と授業での取り上げ方について工夫することと考える。授業改善の視点として「やまなしスタンダード」を取り入れる。

■4 研究の目的

授業がきっかけとなる家庭学習のあり方を研究することで、児童の学習習慣を確立し、確かな学力と自立する力を身につけた児童の育成を目指す。

■5 研究計画

29年度 つかむ

理論研究及び実態調査から、本校における家庭学習のとらえ方を確立する。

1学期

学習習慣の確立のための理論研究

実態調査(児童・保護者)

2学期

学習習慣の確立のための取り組み

授業実践(一人一実践)

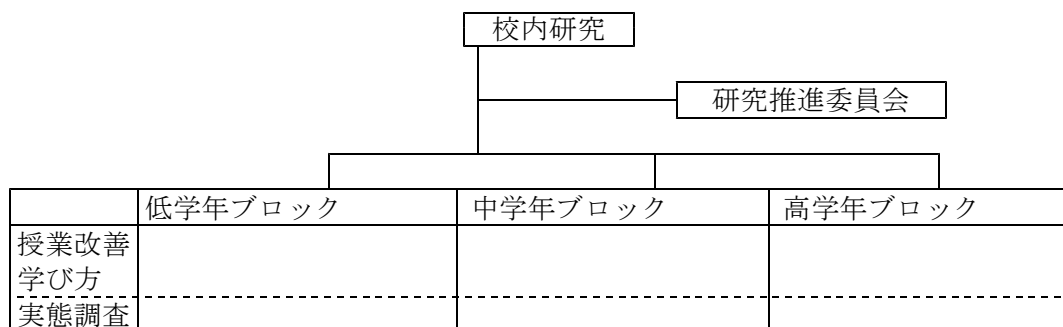
3学期

研究のまとめ

30年度 深める

29年度の研究を生かして実践する。

■6組織



■7 研究の構想

